北海道建設新聞　2014年(平成26年)7月1日（火曜日）

FRP事業強化へ

大型パネルタンクを研究

カワテックス

再生エネや農業に技術転用

鋼製複合タンク製造会社のカワテックス（本社・砂川）が、FRP（繊維強化プラスチック）事業を強化する。現場で簡易施工できる大型パネルタンクを研究。断熱性を持たせることで、バイオガスの発酵槽に代表される再生可能エネルギー分野での転用を目指す。主力のガソリンスタンド向けタンク事業は業界淘汰（とうた）が進んでいるほか、消防法改正による特需も一巡し、先行きの成長は見込めない。そうした中、農業や水産業への技術転用を図ることで一層の企業成長を狙う。

もともとはガソリンスタンドの地下タンクを製造する会社。ここ数年は、消防庁の「危険物の規制に関する規則等の一部を改正する省令」で、油の漏えい事故を防止するためにFRPライニングが義務化され、特需を迎えていた。

しかし省令施行から3年余りが経過し、工事需要も一巡。石油元売りの再編に関連し、系列の石油販売業者も年々少なくなり、新たな事業の柱が求められていた。

その急先鋒（せんぽう）としたのがFRPパネルタンク事業。断熱性能のあるFRPパネルを何枚も組み、角形のタンクを作る。腐食に強いFRPの特長を生かし、今までさびで泣かされていた水産業や空調設備、食品業界で転用できないか検討を続けている。

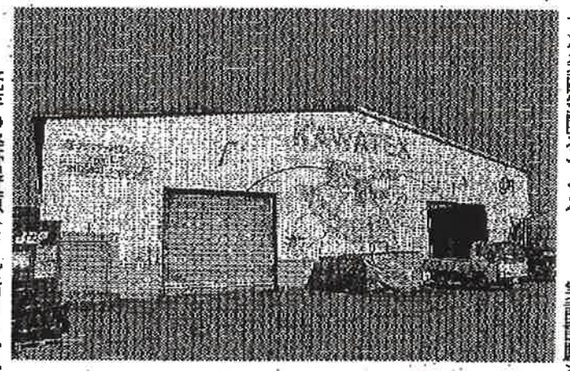
パネル間をボルト接合するのも特徴。従来型の鋼製タンクのように溶接する必要がなく、風の強い日や気温の低い冬でも施工できるメリットを持つ。工期短縮や施工レベルの均一化も期待できる。

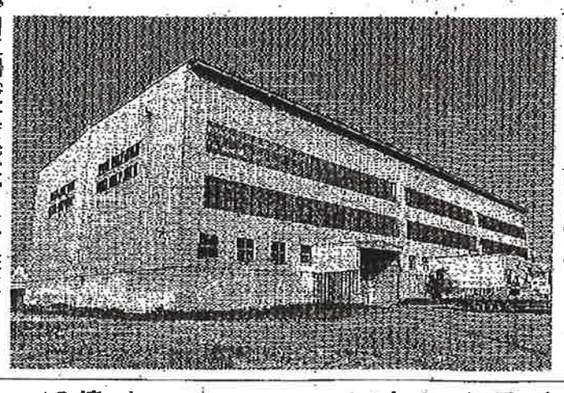
特に注目しているのがバイオガスプラントで使われる発酵槽。断熱材の表裏にFRPを挟むことで保温効果を持たせ、適切な発酵空間をつくる。

パネル1枚当たりを大型化することで部材数を減らし、施工性を高めることも視野に入れている。

実証試験を重ね、2016年度の製品化を目指している。パネル製作は砂川工場、金型加工は岡山工場（三笠）が手掛けることで既存の経営資源をフル活用する。

同社では「ステンレスと鉄、FRPの3材質をラインアップし、角形から円形、地上・地下と幅広いタンクを生産する会社は全国でもまれ。北海道における総合タンクメーカーとしての位置付けを、さらに強化したい」と話している。





既存の経営資源をフル活用し、砂川工場（写真上）がパネル製作、岡山工場（写真下）は金型加工を手掛ける

矢野経済研究所

20年度で1000台超に

インフラ点検ロボ市場

民間調査会社の矢野経済研究所（本社・東京）はこのほど、日本国内のインフラ点検ロボット市場を調査した。国家プロジェクトの成果として2016年度から製品化が始まり、20年度には出荷ベースで1000台を超えるとの見方を示した。

矢野経済研究所では経産と国交の両省による国家プロジェクトが、インフラ点検ロボットの市場成長に大きく影響を及ぼすと分析。15年度までではメーカー単独の展開や業界団体、大手ユーザー企業の主導する開発が中心で出荷は限定的だが、16年度には国家プロジェクトの実証実験などを通じて点検ロボットの製品化が一部始まり、2288台の出荷を予測する。メーンは橋梁点検ロボットと指摘する。

その後は、インフラ点検ロボットの認知度が向上したり効果が期待され、製品数とともに出荷台数も増加。20年度にはメーカー出荷台数ベースで1005台を見込んでいる。

案

ハング設計のほか、外壁材や構造の工夫により立

位置付ける1階にはコミュニケーションポーチを配置。2階のリビングダイニングはバルコニー、吹き抜けにより開放的な空間とし、家族が自然に集まる場を目指した。

オリジナルの制震装置のほか、防水シート、地下の備蓄庫など防災設備を多数配置。複数のモニター映像を合成して家全体を俯瞰（ふかん）できるシステムを採用するなど、防犯対策も充実させている。

睡眠時の動きを検知するセンサーを取り付けて睡眠の質を分析するシステムなど、健康維持に向けた機能も提案。天然素材や自然の風合いを生かした建材の採用や、全館空調システムによる部屋ごとの温度差解消など、居心地の良さも実現した。

スケルトンインフィル設計により、家族構成の変化など節目ごとに空間を変えられるのもメリット。今後は転居時にユニ

地雷時は建物崩壊危

戸田サーディカ電機と高層用ンターした。

地

NEイノベ情報をできる「GIt F始める引先管護者の……地図情でテーする